



折戸小夜子 (多摩の風)

- 1.投票率向上に知恵と工夫を
- 2.認知症予防と対策
- 3.带状疱疹ワクチン接種への助成対策

問 今回の市議会議員選挙の投票率は47.35%。有権者の半分以上が棄権。投票率向上の工夫として、選挙管理委員会が発表している投票区ごとの投票状況表を、市民が直接知り得る為に公共施設等へ配布するのはどうか。

答 有権者が関心を持ち、投票行動につながるように検討して投票率の向上のための啓発活動を進める。

問 2026年まで65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると推計されている。国会で認知症基本法が成立。大和市は「大和市認知症1万人時代条例」を既に令和3年9月に施行。多摩市も条例制定を検討すべきだ。その為に冊子を作り、又、認知症を理解する為に講演会の開催を要望するがいかがか。

答 認知症の政策の為の協議会の設置を検討している。

問 带状疱疹ワクチン接種に都は1/2補助を決定している。多摩市での接種実施日と自己負担額を伺う。

答 8月1日を実施予定。生ワクチン自己負担額は約3,000円。不活化ワクチンは1回約12,500円で接種できる。



いいじま文彦 (自民党)

- 1.地域医療を守る～旧厚生荘病院は？
- 2.学校開放～地域スポーツの推進を
- 3.農業公園から健幸まちづくりを

問 旧厚生荘病院再建の現状をどう把握しているか。

答 法人と意見交換をするなかで、早期に病院を建て替えることが現段階では難しいとの考え方を伺っている。

問 体育館の開放を卒業式・入学式の時期に1か月以上、中止する学校がある。そこまで中止する必要はあるか。

答 可能な限り市民に利用いただけるよう、教育委員会から各小・中学校に協力を働き掛けていく。

問 学校開放の利用申請は未だに紙ベースで、申請書を平日の日中に学校へ持参している。電子メールの利用も許されない。利用者の利便性を欠くが、どうか。

答 引き続き、先進自治体の事例収集やシステム化を視野に入れた検討を続けていく。

問 農業公園において、農地の活用を通して解決すべき社会的課題、推進すべき市の施策はどのようなものか。

答 主に、①環境政策の推進、②健幸まちづくりの推進、③市の魅力向上、④里山文化の継承、の分野で、社会的課題や市の施策の推進につながる取り組みと考える。



石山ひろあき (自民党)

- 1.聖蹟桜ヶ丘における持続可能な街づくりについて

問 聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり事業は聖蹟桜ヶ丘全体の活性化が期待されるが、そのために庁内の垣根を越えた連携が必要。垣根を越えた庁内連携は出来ているか。

答 庁内が一体となり連携し目標を持ち進めていかなければならない。改めて役割分担と連携を強化して聖蹟桜ヶ丘の活性化に努めていきたい。

問 昨年度、経済観光課事業の決算見込みは多摩センターが約2,200万円、聖蹟桜ヶ丘が約600万円となる。この事業で聖蹟桜ヶ丘の活性化を進めるために、ある程度の予算が必要だと思うが、どうか。

答 事業の方向性を決めて、人的支援かお金での支援なのか、行政として何ができるか考えていく。

問 一ノ宮・関戸の方は熱心に自主防災に取り組んでいる。多摩中学校近くの旧市営住宅跡地を防災拠点として地域に活用してもらい、自治会を越えた防災訓練などを行い、地域コミュニティ強化につなげるのはどうか。

答 地域の声を聞き取りながら今後検討していきたい。



あらたに隆見 (公明党)

- 1.環境対策や将来負担を考えた公共施設更新について
- 2.永山駅周辺の住民要望実現へ

問 市内公共施設の太陽光パネルの設置数は少ないが、今後どのように増やしていくのか伺う。

答 補助対象の17年間継続できる場所に設置していく。

問 総合福祉センターの改修費は44億円を上回る見込みだが、延床面積12,000㎡の必要性や環境面も含め、改修ありきではなく建て替えも視野に検討が必要ではないか。

答 ハード面、ソフト面を含め機能・規模の見直しを行い、改修・建て替えなど様々な可能性をもって検討する。

問 本施設は清掃工場、プールとの設備の関係や、また障がい者、高齢者事業もあり新たな街づくりとして、市民の合意形成を図りながら進めるべきではないか。

答 庁内の横串連携と市民や議会との情報共有を図り、どのように進めていくか議論していく。

問 永山駅前のUR局舎跡地解体後は住民悲願の高低差解消、昇降装置設置の好機と捉えるが市の見解を伺う。

答 当該地の利活用の際に、新たなバリアフリー動線の確保に向け検討する。

